

<p>平成30年度 第1回 函館市観光アドバイザー会議 会議録(要旨)</p>	
開催日時	平成30年7月19日(木) 18:30~20:05
開催場所	シエスタ函館4階 Gスクエア 多目的ホール
出席委員	奥平座長, 池ノ上委員, 角委員, 藤原委員, 渡邊委員, 飯野委員, 渡部委員, 趙委員, 高橋委員
欠席委員	外崎委員, 佐々木委員
事務局	観光部長, 観光企画課長, 国際観光課長, 観光誘致課長

1. 開会

開会(事務局)	開会
開会挨拶(部長)	挨拶
開会挨拶(座長)	挨拶

2. 議題

(1) 報告事項

①平成30年度観光施策 の主な内容	資料に沿って説明 ・資料1 平成30年度観光施策の主な内容
委員意見	特になし
②平成29年度来函観光 入込客数推計	資料に沿って説明 ・資料2 平成29年度来函観光入込客数推計
委員意見	
(奥平座長)	平成29年度の観光入込客数を見ると, 数字的に間違いなく新幹線の開業効果は続いていると言えると思う。韓国も増えている。
(観光部長)	LCCを中心に, 新千歳空港発着便の増加の影響がかなり大きいと思う。韓国・函館間の直行便が就航すれば, 入込客数が増えることが期待できる。

③平成29年度函館市観光動向調査	資料に沿って説明 ・資料 平成29年度函館市観光動向調査
委員意見	特になし

(2)今後の観光振興施策に対する意見交換

(渡部委員)	<p>4月から7月の函館バス株式会社における生活路線バスの乗車人員については、ほぼ前年並みで推移しており、新函館北斗駅発着便については増減がなく好調である。インバウンドは増加しており、大型商業施設に向かう方や生活路線バスにキャリーバッグを持って乗車する方などが見られるようになった。目的地としては蔦谷書店がかなり多い。</p> <p>観光路線バスの乗車人員は、天候の影響でゴールデンウィーク後半以降、前年を若干下回る程度で推移している。天候不良で函館山からの景色が見えなければ、函館山以外の場所に滞在する方が多いように見受けられる。</p> <p>バスと市電で使える一日乗車券の販売数は前年比8.6%程度増えた。6月と7月に函館駅前バス案内所の一日乗車券購入者に国籍を聞いたところ中国が30%、台湾が29%、韓国が8%、香港が6%、その他に20%の割合でアメリカ、オーストラリア、インドネシア、フィリピンなどとなっていた。</p>
(高橋委員)	<p>善意通訳会の通訳ガイドについて、以前は一般の方からの依頼が多かったが、4年前からクルーズ船乗客からの依頼が多くなり活動回数も非常に増えた。依頼件数は、4月は昨年度9件であったが今年度は19件、5月は昨年度15件であったが今年度30件と増加した。昨日までの案内人数は182名であり、90%以上がクルーズ船乗客となっている。比較的目的立つ国籍はオーストラリアやアメリカ、カナダであり、最近ではアジアの方も増え、シンガポール、マレーシアあたりも多い。</p> <p>善意通訳会の会員数は現在42名であり、ほとんどは英語が専門で、その他に中国語が4名、韓国語が3名となっている。</p>
(趙委員)	<p>北海道国際交流センターとしてクルーズ船乗客へ対応している際、観光動向調査の結果にもあるが観光パンフレットが少ない、見てもわかりにくいというお声をよく聞く。クルーズ船を利用する韓国の方については年配の方が多く、若い方と異なり韓国語しか話せない方も多い。</p> <p>FreeWi-Fiについては、セッティングが難しいようで対応が大変であり、手軽に設定できるとありがたい。</p> <p>市電についてもチケットが買えないなどのお声があるので、標識や案内</p>

<p>(藤原委員)</p>	<p>ができるスタッフが居れば良いと思う。</p> <p>イスラム圏の方は寄港しても船から降りてこないという話があり、学生たちがイスラム圏の方への対応を1年間研究した。ベイエリアにある函館大学サテライトキャンパスを礼拝所として開設する企画や、インドネシアの来訪団の案内、朝市でメニューを改修し、ムスリムの方が自ら選んで食事ができるような表示をする取組みなどを進めている。大学のホームページにはムスリムの方たちへの対応を知ってもらうために、学生たちだけで作ったゲームもアップしている。</p> <p>道内の市町村で講演を行う予定であり、全道でムスリム対応が話題になっている。</p>
<p>(角委員)</p>	<p>個人的に観光が好きで、様々なイベントやワークショップに参加している。町全体が博物館と考え、縄文遺跡や市内の観光資源を対象としたミュージアムITというプロジェクトにも参加しており、皆さんとは、コンテンツを保護することだけでなく発信することについて意見交換をしていきたい。</p> <p>私の専門は人工知能やヒューマンインタフェースといったいわゆるコンピュータサイエンスであるが、研究で開発している技術やコンテンツを観光資源として役立てたり、話題提供をしていきたいと思っている。</p>
<p>(池ノ上委員)</p>	<p>特に外国人の観光スタイルにはっきり出ているが、函館のほとんどの観光客が個人客（FITやSIT）に変わってきていることにどの程度対応しているか、またその環境づくりのために公共的にどのように取り組みを展開するかが重要だ。函館の人口減少等の深刻な地域課題を踏まえると、観光基本計画策定時に算出した生産波及効果の係数1.49は低いと思うので、再検証し上げるための方策を検討すべき。例えば、ムスリムの方への対応については、必要以上の日本的なおもてなしがなくても対応できるケースもある。完璧な設備や説明がなくても、異文化体験のプログラム提供により十分お金を落としてもらえる可能性がある。</p> <p>選択と集中ができる組織としてDMOなどにより、マーケティングの上で戦略を立て、課題に対し刺さる戦術を作り、観光スタイルの転換に対応する環境を整えていくことが必要である。</p>
<p>(渡邊委員)</p>	<p>新幹線が開業してからの傾向として、インセンティブ系という企業の報奨旅行が増えている。</p>

<p>(飯野委員)</p>	<p>観光客を何百万人まで増やすのか、どこまでが限界なのか考えるべきではないか。日本人観光客が減った分インバウンドが増えているので、さらにインバウンドを増やすならどこまで増やしていくのかを考えなければいけないと思う。</p> <p>ホテルの部屋数が増え、宿泊人数が減っていったときにどうなるのか、宿泊業界の未来の不安はとても大きいと思う。</p> <p>何百万人の観光客を受け入れれば市民の生活に好影響を与えることができるのかと考えると、目標数値を定めないことにはそこに向かっていく戦術がない。</p> <p>宿泊業の社会は地域にお客様を呼ぶことには積極的ではないが、様々な事業に取り組んでいかなければいけないという思いもあるので、冬に観光客に来てもらうという近未来の目標も持ちたい。</p> <p>昨年滞在型の宿泊者が意外に増えたのだが、なぜ増えたのかという理由が欲しい。理由があって増えたならそこを強化すれば良いのだが、漠然と増えたと言われても、次の手をどう打ったら良いか考えながら仕掛けていては時間が掛かる。どこへ行けば良いのか全体網を見て、そこを狙っていきたい。</p> <p>先へ先へとやっていかなければいけず、この会議の内容も未来志向でないといけないと思う。</p>
<p>(奥平座長)</p>	<p>観光入込客数550万人を維持しようとするのがこれからの目標ではないか。新幹線開業前に策定された観光基本計画の数値は現状と乖離してしまっているので、中間見直しの時期が来た時にはこの会議で議論していく必要がある。</p> <p>日本の主だった港町にモスクはあるが、函館だけなかった。函館大学のモスクはぜひとも大きく成功して欲しい。</p> <p>市内ホテルの客室数が増えるとの報道が続いているが、その場合どうなっていくのかを見ていかなければいけない。</p> <p>恵山もひとつの観光資源になる。この会議を通して恵山の魅力を発信したいと考えている。</p>

3. 閉会

<p>閉会（事務局）</p>	
----------------	--